

「エノクは神と共に歩んだ」

(創世記5章18節～27節)

「エノクの一生は三百六十五年であった。エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった」(5:23, 24)

仲森文穂

今日のメッセージ要旨

○今日のご高齢の方々の祝福礼拝です。人は様々で、まだ若いのに希望も失う人もいれば、ご高齢になって体の衰えはあっても心は元気、前を向いて生きる方もいます。皆さんは勿論あとの方ですね。私は諸先輩に溢れる心の健康に、また主のたいなる祝福にあずかりたい、と老いの前途に希望を見出す一人です。

与えられたご長寿は祝福ですが、それを神様に喜ばれるように用いるならば、更に祝福がまし加えられることでしょう。量も大事、質も大事。それを示すのが、エノクという人物です。エノクの生涯は365年。もちろんご長寿ですが、彼の前後の人々と比べるとずいぶん短命ですね。でも彼は果報者です。なぜなら彼一人だけ、「彼は死んだ」と記されず、「神が取られたのでいなくなった」と書かれているからです。

○聖書は「彼が神と共に歩んだ」と2度も記しています。彼がよほど忠実だったのでしょう。神様と共に歩む生活は、私たちも日々味わっています。神様と呼吸を合わせ、2人3脚で歩むわけですが、当然主導権は神様にあって、私たちは従うしかありません。幸いな道ばかりでなく、時には行きたくない道へと導かれることもあります。エノクは愚かなほどに365年間、忠実に神様に従ったといえます。その結果、ヘブル人への手紙11:5によると、「エノクは死を見ることがないように、神に移されて見えなくなった」のでした。言い換えるならば、命から命へ移された、生きながら永遠の命へと移されたのです。私たちはこのエノクと自分を比べて、私の方が信仰生活が短いとか、忠実でないなんてする必要はありません。なぜなら私たちにはイエス様という強い味方がおられるからです。イエス様の十字架の執り成しの故に、私たちは一切のことを赦され、生きている内から永遠の命を約束された果報者なのです。

三浦綾子さんの祈りに「神様、永遠に神様は生き給います。私の生きている今も、死んだ後も、神様の生きてい給うことを思って平安です」とあります。なぜ、神様が永遠に生き給うことが私の平安につながるのでしょうか。それは永遠に生きたもう神様の愛の中で私たちも永遠に生きることができるからです。そこにキリスト者の希望があるのです。

終わりに、敬老の日に因んで日野原重明さんの「老いを生きるために必要なこと」という文の概要をご紹介します。3つほどあります。一つ目は頭を使うこと。例えば、礼拝に参加して讃美歌を歌い、御言葉を読み、聞き、祈りを共にするのは、とても頭に良いそうです。それと若い方との会話も、いろんな刺激を受けて脳を健康にするそうですよ。二つ目は日々の小さな目標を見つけること。例えば今日はあれとこれをしようと決める、それだけでいいんです。三つ目は、生活に笑いを持ち込むこと。笑うって一人ではしませんね。教会に来てお互いに笑い合うのがとてもいいんだそうです。

今日はこの後、廣田先生が祝福のひとときを持ってくださいます。ご高齢の方々の上に主の御祝福がますます豊かでありまますよう心を合わせたいと思います。